



# ひかいのこ

2022年度 **9月号**

日本キリスト教団  
**名古屋新生教会 子どもの礼拝(CS)**  
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820  
 ホームページ: [名古屋新生教会](#) 検索

まだまだいろんな制約はあるものの、この夏休みは久しぶりに「行動制限」のない期間でした。振り返ってみると、昨年(2021年度)は8月下旬から「緊急事態宣言」、2020年度は1学期の休校期間に伴って夏休みが短くなり8月途中から2学期が始まる、といったように、ようやく以前の状態と同様の夏休み期間を過ごしました。地域によっては夏祭りや花火大会なども行われたところもあります。みなさんはどんな夏休みを過ごしたのでしょうか？

夏休みも終わって2学期が始まり「学校に行けて、みんなに会えてうれしいな!」でしょうか?それとも「ああ、学校始まる…嫌だなあ〜」でしょうか?いずれにしても、新たな気持ちで2学期をスタートすることで、きっとステキな学校生活が送れることでしょう!まだまだいろんな不安や心配がありますが、みなさん一人ひとり、心も体も健康に過ごしてほしいと祈っています。

## 今月の礼拝 単元24:キリスト者の働き

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4~中学生以上) 9:00~9:30	分級 (小学生/中学生以上) 9:35~9:55 <small>(状況を見て)</small>	こどもれいはい (幼児~小3) 10:00~10:20
9月4日	ドルカス	使徒 9:36-42 ヤコブ 2:14-26	武岡 基	プレイ・タイム	安達正樹牧師

## 単元25:イスラエル王国の繁栄と衰退

9月11日	知恵を求めたソロモン	列王記上 2:1-12、3章	武岡路実	プレイ・タイム <small>(状況を見て)</small>	安達いづみ
9月18日	ソロモンの神殿建設	列王記上 6章-8章	林 小夜子	プレイ・タイム <small>(状況を見て)</small>	武岡 基
9月25日	ソロモンの罪	列王記上 11:1-40	安達正樹牧師	プレイ・タイム <small>(状況を見て)</small>	安達正樹牧師

**振起日** あまり馴染みがないかもしれませんが「振起」とは「奮い立つこと。奮い起こすこと。」という意味です。教会的には「再びしっかりと信仰を持つ」「神さまに立ち返る」とでも言いましょうか。教会学校のみなさんにはちょっと難しいかもしれませんが、「神さまのことを思い起こす」「神さまの御声に耳を傾ける」と言い換えましょう。教会の伝統の中で9月の第1日曜日を「振起日」「決心日」と定めているところもあります。これから秋、そしてクリスマスへと向かっていきます。教会の歩みもしっかり続けていきましょう。



## 今月の聖句

こ ことば くちさき おこな せいじつ あい あ  
**子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。**

(ヨハネ I 3:18)

## 今月のさんびか♪

こどもさんびか 117 (さあ てをくんで)

9月の礼拝では、1週目は8月からの続きとして「キリスト者の働き」を新約聖書から学び、2週目からは11月後半にかけて「イスラエル王国」について旧約聖書を学びます。

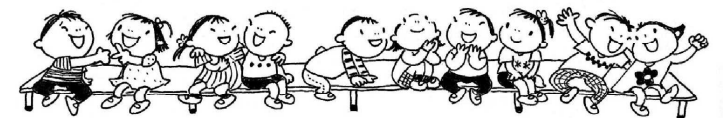
今月のさんびか117「さあ てをくんで」は、1981年に作られ『こどもさんびか2』(1983)に収録された、誕生日を祝う賛美歌です。名古屋新生教会子どもの礼拝では毎月第1日曜日の礼拝でその月に誕生日を迎えるお友だちを紹介し、誕生日をお祝いする賛美歌を歌っています。とはいえ、いつも歌う賛美歌は116「うまれるまえから」で、みなさんにとってもなじみ深い賛美歌ではないでしょうか。こちらは1966年にできた作品ですので、それよりも新しく作られた誕生日の賛美歌です。

作詞者の阪田寛夫さん(1925-2005)は、大阪市に生まれ、熱心なキリスト教徒の家庭に育ち、14歳のときに南大阪教会で洗礼を受けました。東京大学文学部を卒業の後、詩人、小説家、児童文学作家として活躍しました。彼による作詞した作品は数多く、童謡など子どもにとって馴染みのある作品だけでも、『サッチャン』、『おなかのへるうた』(♪どうして おなかのへるのかなけんかをするとへるのかな〜)、『そうだ村の村長さん』(♪そうだむらの そんちょうさんがソーダのんで しんだそうだ〜)、『マーチング・マーチ』(♪マーチったらチツカカタ 行進だ〜)、『やきいも グーチーパー』(♪やきいも やきいも おなかのグー〜)、さらには子どもから大人まで誰もが知っている『ねこふんじゃった』…どれも親しみある歌詞ですね。

作曲者の寺島尚彦さん(1930-2004)は、栃木県出身で東京芸術大学音楽学部作曲科を卒業し、のちに洗足学園音楽大学で教授として勤められました。1967年に初めて沖縄を訪れ、心揺さぶられました。そして沖縄戦の悲劇を歌った『さとうきび畑』(♪ざわわ ざわわ ざわわ〜)(作詞・作曲)が誕生し代表作となりました。他にもNHK「みんなのうた」や「おかあさんといっしょ」で紹介された童謡『たのしいね』や、合唱曲、全国各地の校歌、NHK全国学校音楽コンクール課題曲など、幅広く数多くの作品を残されています。

阪田寛夫・寺島尚彦の名コンビで作られたこの作品は、とても爽やかに誕生日を祝うにはすばらしい賛美歌です。特に、2節の「だいじな友だちが」のところを「だいじな〇〇ちゃん(〇〇くん・〇〇さん)」と名前を入れて歌うことができ、誕生日を迎えた子どもが複数人いても、2節の5小節目と6小節目を繰り返して歌うことで何人でも追加できるので、誕生会にはぴったりの賛美歌です。ほとんどの教会(名古屋新生教会でも)や保育・幼児教育の場では116「うまれるまえから」が歌われているので、この賛美歌の出番は少ないですが、誕生会の「導入」や「退席」に116を歌い、お祝いする場面で117を歌う、礼拝形式であれば「前奏」や「後奏」に116、礼拝の中で117を歌うといったように、誕生日の賛美歌が増えることでいろんな工夫ができるようになります。

「今月のさんびか」として「誕生日の賛美歌」というのも好ましくないように思えますが、この117「さあ てをくんで」を覚える機会として今回選びました。また、「誕生日の賛美歌」と区分され、歌詞にある「命を受けた日よ」は「誕生日」を意味していますが、私たちはいつも神さまから新しい命を受け続けています。そのことを思えば、いつでも歌える賛美歌ですし、毎週の日曜日の礼拝でこの賛美歌を歌うのは、なんと素晴らしいことではないでしょうか!



おたんじょうびおめでとう🎂

9月生まれのお友だち